

告 知 板

→ご注意← ☆会員名簿・広告掲載の勧誘☆

- * 同窓会が関知しない第三者が、「甲陽学院同窓会」の名称を使い、相も変わらずハガキ・電話・メール・訪問などして、現住所・勤務先・出身校・電話番号などの照会・名簿の購入依頼・広告の掲載依頼を行っているようです。
 - * 皆様には、依頼先の名称・住所・電話番号などをご確認を頂いて、慎重な対処をお願いします。同窓会からの依頼は、「甲陽学院同窓会」の名称で、責任者の氏名・役職と何回卒と記載しています。その所在地は、甲陽学院高等学校の住所と同じです。
 - * 何かご不審な点がありましたら、必ず同窓会事務局まで、内容のご確認をお願い申し上げます。
- ◇今回は、母校・甲陽学院創立85周年記念事業の一環として、「同窓会名簿」の編纂・発刊と広告の掲載募集を行いつつあります。これと混同をしないように、慎重なご確認をお願い申し上げます。

☆「会報・甲陽だより」の原稿募集 ☆

- * 次号・第68号は、7月中旬頃に発行を予定しています。
- * 「会員だより（同期会・クラス会）」・「運動部・文化部のOB会だより」・「詩・短歌・俳句の発表」・「クラス会・同好会・研究会等の連絡」などのご投稿をお待ちしています。
- * 原稿の締切日は、5月31日です。

○ おわびと訂正 ○

昨年3月発行の『甲陽だより』第65号3ページの「甲陽史学会のこと」の中で、田岡香逸氏の紹介として「西宮市立図書館長」とありますのは、「西宮市立図書館嘱託」の誤りでした。おわびして訂正いたします。

☆理事・評議員の皆様へ☆

- * 理事・評議員の皆様の中で、転勤などで関西から遠くに転居された方が目立ってきました。更に理事・評議員が選出されていない卒業回、また定員不足の卒業回も見られます。
- * 同窓会を運営し活動を行う上で、理事・評議員の方々は重要な役割を担われており、同期の方々の代表でもいられます。会則上、理事・評議員は同期の方々が適宜の方法で選出をされることになっています。よって理事・評議員が空白の卒業回、また定員不足の卒業回の方々は、同期の方々と話し合いをされて、その更新・補充を事務局までお届けをお願いします。
- * 選出の人数は、理事は、同期（卒業回）から1名。評議員は、各クラスから1名（5名以内）です。

☆「ノボテル甲子園」の優待券の発行☆

- * 「甲子園都ホテル」が「ノボテル甲子園」に生まれ変わり、その名称が変更となりました。それに伴い新優待券を発行致しました。割引率・条件などは前回と同様であります。
- * 新優待券は、前号に同封してお手元まで送付をしました。同ホテルをご利用される方で、新優待券の追加をご希望される方は、ご面倒をお掛けしますが、事務局までお電話・FAX・Eメールで、ご連絡を頂ければ、直ちにお手元まで郵送をさせていただきます。

○ おことわり ○

10ページに記載されていますように、現在会員名簿発行のための住所等調査中です。ただし、現在調査中の新しいデータにつきましては整理が終了しておらず、この会報のあて先には反映されておりません。悪しからずご了解下さい。

新しい年を迎えて

同窓会会長 平 田 豊 (22回)

去年は、わが甲陽学院にとって85周年というお目度い年であった。

同窓会に於いても、本来であれば例年の会員総会も、盛大な記念の会にすべきとも考えたが、日本の社会情勢の厳しさをも勘案して実質的なものとした。

催しとしては従来のパネルディスカッションでなく、趣を変えて記念音楽祭としたのであるが、好評裡に終えることが出来た。約400名の会員の参加を得て、第2部では恩師と語る会、或いは甲陽クイズ、校歌の合唱等、和やかな雰囲気の中で楽しい一日を過ごすことが出来た。ご同慶の至りである。

ただ、参加者が増えれば増える程運営面に色々な問題が生じていることも事実で、会員総会運営委員会を中心として、一層の改善につとめてまいりたいと考えている。

また、85周年記念の会員名簿の編纂も順調に進捗しており、本年中には皆様の手許にお届け出来る予定である。ただ、この名簿編纂については、かねてから申し上げている通り、会員の皆様の絶大な協力が無ければ完璧なものが出来ない性質のものである。お互いに総力を結集して魅力ある名簿を作り上げたいものである。

また、同窓会活動の一環としての同窓生による講演会の援助も、一昨年に続き昨年も行うことが出来た。同窓会の母校に対するささやかな貢献と考えている。

ところで、21世紀に入ってから日本は、政治経済社会のあらゆる面で暗い話題が相次いだ。政治に対する不信感、経済の先行きに対する自信の喪失、凶悪犯罪の続発による社会不安、深夜の街でも婦人が何の心配もなく歩けるという日本の良さは既に過去のものとなってしまった。バブルの崩壊後日本は10年間無為の時を過ごした。日本が昔の輝きを取り戻し民族としての誇りを取り戻す為には、これから更に10年を必要とすると言われる。希望的に考えても5年は必要と言われている。いずれにしても、経済面でV字型の回復は難しいというのが内外に於ける定説である。

ただし、そのような状況のなかで、明るい話題もある。危機意識の喪失は困るが、われわれはもっと日本の良さ日本人の長所を見つめ直すべきではないかと思う。

去年の最も明るい話題はノーベル賞の受賞であった。それも同時に二人の科学者が受賞の栄に浴したということは画期的なことで、喜ばしい限りである。日本人の資

質の優秀さはもとより、日本人の研究力の強さを世界に示したものと言えるのではないか。更に今後、日本人のノーベル賞受賞の有力候補は数十人に及ぶと予測されている。いずれ、それも近い将来に、わが甲陽学院の同窓生の中からもノーベル賞受賞者が出るものと期待したいものである。

また、ダボス会議を主催する世界経済フォーラム（WEF）は、先般世界の80ヶ国を比較した「2002年世界競争力報告」を公表したが、後退を続けていた日本の順位は、13位まで上昇して来たことを告げている。特に「企業レベルの革新性」では世界のトップとなったほか、特許の取得、技術の洗練度等で世界のベストファイブに入る評価を受けている。

更に、国連児童基金（ユニセフ）は、先進国の15才の生徒を対象に「基礎学力の水準に達しているかどうか」の試験を実施した調査報告を発表している。最も成績の良かったのは韓国で日本は2位に入った。米国英国をはじめとして欧米先進国を押えての上位水準である。

このような現象を教育の成果と見るべきなのか、基本的に日本人の質の優秀さの結果と捉えるべきかについては議論のあるところであろう。戦後導入された教育の改革の是非については有識の方々の検討に譲るとして、いずれにしても、日本という国が再び力を取り戻して、世界の先進国に伍して行く為には政治経済のあらゆる面での努力が必要であろう。そして、その根底に教育の問題があることも事実である。

今、教育の重要性が声高く叫ばれるなか、われわれが卒業した甲陽学院は、私学の雄としての地歩を固めて来ている。政財界をリードする秀れた人材を輩出していることはご同慶の至りであるが、更に言えば、日本再生の要としての期待を担っての活躍を祈りたいものである。

www.novotelkoshien.com

行き届いたおもてなしと洗練されたサービスで
あなたのホテルライフを華やかに演出致します。



A worldwide leader in hotels and tourism.



KOSHIE

ノボテル甲子園

＜旧甲子園都ホテル＞

西宮市高潮町3-30(阪神甲子園駅西口前)

お問い合わせ・ご予約 0798-48-1111

■封筒下の記号の見方

既に年会費をお納めの方や終身会費をお納めの方には失礼ですが、今回も振り込み用紙を同封しております。未納の方は、よろしくお納め下さい。

平成15年1月31日現在での同窓会費の納入状況をご案内しています。

例：終身会員H11年度 ←

- ① 上段には、前納の年度、または、終身会費をお支払い頂いた年度を示しています。その他の場合、この表示はありません。

- ② 下段には左から順に、平成元年度、2年度、…15年度の年会費のお支払い状況を示しています。

▼記号の意味

1	当該年度分の年会費を納入済	終	当該年度に終身会費を納入	♪	甲陽学院に在籍
0	〃 未納			卒	その年の3月に卒業

従いまして、下段に含まれる0の個数 × 1000円が、未納の年会費となります。
同封の振り込み用紙にてお支払いください。

- ③尚、年会費を納められるとき「何年度分」と指定されても、過去分が未納の場合、そちらへ充当させていただいております。また不明の場合は、事務局までお問い合わせ下さい。

学校
だより

新学習指導要領のねらいと本学院の現状

学校長 石 川 義 明



2002年（平成14年）4月から小学校、中学校において新指導要領が実施され、それに伴って小中高全ての公立校と私立校の約半数が完全週5日制となりました。

この度の新指導要領は「自ら学び自ら考える力などの『生きる力』の育成」を目指したものです。今回の

この改訂の大きな柱として、二つの特色があります。その一つは完全週5日制の実施に伴う、1980年代の「ゆとりの教育」の流れを汲む教育内容の厳選であり、また中学から高校にかけての「選択幅の拡大」により、時間的、精神的ゆとりを生み出そうとする一連のものです。これは従来からあります基礎的なことから上に積み上げていく体系だった教科学習です。もう一つの特色は総合学習です。この総合学習は1990年代に導入されました生活科の延長線上にある、必ずしも体系だったものではなく、身近な生活の中で、さまざまな問題を解決する資質や能力を育てることを目指しています。従って、今回の新指導要領の特色は、教科的な体系的学習と、もう一つは総合学習で、経験に基づく学習とが並列的に置かれていることにあります。

従来の指導要領は学習内容の上限が示され、その範囲を逸脱してはならないことになっていましたが、今回の新指導要領は学習内容の最低基準を明示したものです。この4月から新指導要領を実施している公立中学校の先生方によると、個人により、勤めている学校によって多少の差はありますが、学力の低下は避けられないとのことです。文部科学省は完全週5日制をとりながら、補充的な学習とか、個人指導、習熟度別指導、発展的指導を打ち出すなどその対応に苦慮しています。もう一つの特色である総合学習は中学校の現場ではその主旨は評価しつつも、その実施にはさまざまな問題点を抱えています。

昨今「本当の学力とは何か」がよく問われていますが、初等・中等教育における大切なことは、従来からの基礎的学力をじっくり、慌てず、腰を据えて生徒達一人一人に十分につけてやることです。そういう意味で本学院、中学校では英語、数学は各学年とも、週6時間、国語は1年では6時間、2、3年では5時間というように、学習内容の定着率を高めるために、毎日継続して学ぶことを重視し、土曜日も授業をしています。そして2001年度から、中学1年の英語と中学2年の数学の授業で、1クラスを2分割する少人数制を導入しています。初めて英語に出合う時と、高校の数学に出合う時に、焦点を合わせて、できるだけきめ細やかな対応を心がけています。高校では、いままでもいろいろな科目で、生徒の希望に合わせた形で少人数制を採用してきました。4年前から1年生の数学の時間は高校から入学してくる生徒達だけを取り出し45名を2分割して、23名と22名で授業をし

ています。甲陽中からの進学者との進度の差をとりもどす為に、少人数制にしているのです。1クラス全体での授業と、必要に応じた少人数制の授業によって、尚一層の効果をあげてきています。大学進学に関しては、ここ数年学年主任を中心に一人一人を把握し、大切に育てあげてきていますので、大学進学率は各回生によって大きな差はありません。これは生徒達の努力は勿論、日々の授業に対する教師の情熱と教育に対するプロ意識が発揮されているからに他なりません。

また、中学では2002年から総合学習の一環として新年度の初めに、1年、2年、3年とも校外学習を取り入れ、1年生は入学間もない生徒達の親睦を図るために1日ゆっくりとグリーンピア三木に行きました。2年生、3年生はそれぞれ体験学習として、2年生は読売放送局と大阪造幣局に、3年生は奈良の飛鳥に出かけました。そして従来から実施していますように、夏休みには、1年生は四国方面に2泊3日、2年生は信州方面に3泊4日の校外学習を実施しました。3年生は2月に長野県の志賀高原にスキー訓練に行きました。また毎年行っていました中学3年生の希望者による英国語学研修は2002年度はアメリカの同時多発テロの影響もあって取り止めたましたが、2003年度には実施する予定です。そして2001年度から同窓会のお力添えにより実社会で活躍中の同窓生を招いて中学、高校それぞれで講演会を実施しています。

21世紀に入り、いろいろ多様化していく社会の中で、時代が求める「学力とは何か」を模索しながら、甲陽学院が従来から重視してきた基礎学力の充実を基礎として、更なる発展を目指したいと考えています。



香炉園の甲陽学院中学校

母校における同窓生による講演会

本頁の石川校長の文章の中にもありますように、昨年度より、母校において在校生を対象とした同窓生による講演会が催されておりす。

今年度は、11月22日に中学校において北方一成氏（62回）に「ネパールの病院に勤務して」と題して、また12月14日には高等学校にて田辺征夫氏（44回）に「私の『考古学への道』」と題して、それぞれご講演をいただきました。

右頁に北方氏のご講演要旨を、また次号にて田辺氏のご講演要旨を掲載いたします。

ネパール病院に勤務して

医真会八尾総合病院 消化器センター内科

北 方 一 成 （62回生）

2002年11月22日”の午後、甲陽学院中学校講堂において、医真会八尾総合病院消化器センターの北方一成氏（62回生）の講演会が開催されました。北方氏は内科医として臨床・研究（主テーマ：肝臓とエンドキシン）に携わられた後、日本キリスト教海外医療協力会（J O C S）からの派遣で、ネパールのパタン病院に内科医として勤務されていました。そのときのご経験を中心に、ネパールの様子などをスライドを交えながらお話しいただきました。以下に、その講演要旨を記します。

ネパールはインドと中国に囲まれた小さな国で、北海道の2倍くらいの大きさです。人口は2,200万人で、国民所得が世界で最も低い国の一つです。エベレストをはじめとするヒマラヤの山々や犀や虎のいるタライなど起伏に富んだ地形をしています。沢山の種族が住んでいますが、共通語は一応ネパール語です。首都のカトマンズから少し離れると段々畑が広がり、主たる産業は農業です。宗教はヒンズー教が信仰されています。私はカトマンズにほど近い古都パタンの病院に勤めていました。ネパールはパタンやカトマンズのあるカトマンズ盆地に人が集中しており、煉瓦造りの家が密集しています。町中には古い車が多く、排気ガスによる大気汚染が問題になっています。牛は聖なる動物で車は牛を避けて通ります。物価は安く、散髪も30円程度です。

私の勤務していたパタン病院は300床ほどで、内科には42床あります。日本の病院に比べると暗い感じがしますが、ネパールでは非常に綺麗な病院と言われています。しかし、集中治療室にある医療機器などはすべて欧米から寄付を受けた中古品です。人工呼吸機は4台ありますが、もしそれ以上必要な場合は家族に呼吸機の替りを手動でももらいます。胃カメラも普通の病院にはなく、人間ドッグなどで胃の検査をすることなどほとんどありません。ひどくなってから来院されることが多いので、早期胃癌の発見は、ネパールでは4、5例ある程度です。

内科に訪れる人の3割は慢性閉塞性疾患と言われるもので、原因は二つあります。一つは家の中に竈の煙を回して穀物に虫をつかなくしていること、もう一つは喫煙率の高さです。結核の問題もまだ深刻です。農業による中毒も毎週数名いました。腸チフスも普通に見られる病気です。リュウマチ熱が原因で若年層の心不全も結構あります。また、雨季には毎日のように雨が降るため、衛生上の問題もあって、脳炎・髄膜炎や赤痢・コレラなど



もよく発症します。

ネパールには国民保険制度はありません。すべて自己負担です。また、病院までの距離が遠く、それぞれの郡にある郡病院も実際には機能していません。例えば、医師が駐在しなかったり、レントゲンなども壊れたままであったり、検査技師がいなくて検査もできない状態であったり、沢山の問題を抱えています。そこで、場合によっては何日もかけてカトマンズ盆地の病院に運び込まれます。しかし、お金がないので検査できない、輸血できないなどの問題があります。93年の国民1人当りの総生産が3万円です。同僚の医師の月給が2万円で、これは超エリートの部類です。大部分の人は貧しく、医療費も払えず、夜逃げ同然で退院していく人もいます。

医療は経済・環境・教育・福祉などさまざまな問題がリンクしています。例えば、福祉の面でも、ハンディキャップをもった人達は家の中に隠される傾向にあります。これには経済的な問題も一つですが、宗教上の問題も絡んでいます。このように社会的弱者には厳しい環境にあります。ただ、エイズなどはまだまだ広がっていませんなど、アフリカの一部の国に比べてましな面もありますが、改善は遅々として進まないというのが現状です。

ところで、私がなぜネパールへ行こうと思ったのか少し触れておきます。大学を出て、奈良の病院で臨床・研究活動をしているときに阪神大震災がありました。しかし、こんな近くにいるのに何一つボランティアもできない自分に疑問をもちました。そのとき、聖書の中の“最も小さい者”（＝最も弱い者）という言葉が心にとまりました。私は、この“最も小さい者”と共に歩むことに自分の医者としての道があるように思いました。

我々の周りにはものが溢れています。蛇口をひねれば飲める水が出てきます。このことを当たり前のことと思って、感謝する気持ちを忘れていないでしょうか。しかし、時差わずか3時間のところに日々の食糧に飢え、1万円の医療費すら払えない人々が住んでいることを知って下さい。そして、できればこの中の何人かが実際にその地へ行って、自分の目で確かめて下さい。ネパールの5歳未満の死亡率は日本の20倍、平均寿命は54歳です。

いきなり海外に出なくとも、“最も小さい者”は周りにもいるかもしれません。大阪・西成区の愛隣地区で活動を行っている仲間もいます。まず自分にできることから、周りの人々に笑顔をふりまくというようなことから始めていただければいいのではないかと思います。

これから皆さんは、英語をしっかりと身につけられ、少しでも外へ歩みを進め、そして関心を持ち続けることによって、世界の多くの人々に微笑みや喜びを与えることができるということを、またそのような力を持っているということを忘れないで、将来を歩んで行って下さい。

学校
だより

第50回記念交歓競技会（甲関戦）

平成14年9月12日（木）、関西学院中学部においてちょうど50回目の節目となる交歓競技会（甲関戦）が開催された。開会式で50回を記念する式典が行われ、長年交歓競技会の発展に寄与された甲陽学院元中学校長の中村泰三先生と関西学院元中学部長の尾崎八郎先生に記念品が贈呈された。

成績は甲陽の3勝、関学の6勝で、甲陽の7年ぶりの総合優勝はならなかったが、どの競技も白熱した好ゲームが展開された。この日、10時半頃から天候が急変し、見たこともないような凄まじい大雨となったが、関係諸氏の努力により一部予定を変更しながらすべての競技を実施することができた。局地的な豪雨だったようで、夙川が急に増水してかなり危険だったらしい。（お一人亡くなられたと聞く）

今後もこの競技会が継続・発展し、100年、200年の歴史を刻むことができれば、どんなに素晴らしいことであろう。こういった節目の年に参加できたことに感謝したい。閉会式で生徒全員に両校の校章と校歌を入れた立派な特製のタオルが配られた。生徒たちにとってこの上もない記念品になるであろう。（森口 記）

競
技
別
成
績

陸上	甲陽	16：32	関学○
野球	甲陽	4：5	関学○
サッカー	甲陽	0：5	関学○
卓球	○甲陽	6：3	関学
テニス	○甲陽	6：1	関学
バレー	甲陽	1：2	関学○
水泳	甲陽	4：52	関学○
バスケット	○甲陽	39：37	関学
剣道	甲陽	1：2 (2分け)	関学○

中村泰三先生からのメッセージ

退職して3年になりますが、今日は若い皆さんのエネルギーをいただくことができました。甲関戦のますますの発展をお祈りいたします。

尾崎八郎先生からのメッセージ

畑先生、廣山先生と共に第1回目から参加していますが、それが50年続くのはすごいと思います。甲関戦のおかげで一生付き合える友ができました。全校生徒が燃えて応援しあう大会になったのがうれしいことです。学校を越えて友達を作ってほしいです。

過 去 の 成 績

種目 回	陸 上	野 球	サッカー	卓 球	テニス	バレー	水 泳	バ ス ケ ッ ト	総合	場所
第1回	25:14関	7:3甲	5:0関	3:2関	—	—	—	—	3:1関	関学
第2回	32:8甲	5:4甲	2:1関	3:2甲	—	—	—	—	3:1甲	甲陽
第3回	27:13関	3A:0甲	11:0関	4:1関	4:1甲	—	—	—	3:2関	関学
第4回	40:8関	1A:0関	5:0関	4:3甲	4:3関	—	—	—	4:1関	甲陽
第5回	32:16関	1:0関	3:0関	5:2関	5:2甲	—	—	—	4:1関	関学
第6回	29:19関	4:0関	12:0関	7:2甲	5:2甲	—	—	—	3:2関	甲陽
第7回	31:17関	3A:0関	3:0関	7:2関	4:3関	3:0甲	—	—	5:1関	関学
第8回	25:23甲	7:4関	7:0関	7:2関	6:1甲	3:1甲	20:20甲	—	4:3甲	甲陽
第9回	30:18関	2A:0関	8:0関	5:4関	4:3甲	3:0甲	22:18関	—	5:2関	関学
第10回	31:17関	2:1関	3:0関	8:1甲	4:3甲	3:0甲	28:18関	—	4:3関	甲陽
第11回	31:17関	2:1関	4:0関	5:4甲	5:2甲	3:2関	24:22関	—	5:2関	関学
第12回	31:17甲	3:1関	3:0関	8:1関	4:3甲	2:1甲	24:22甲	27:21関	4:4 ⁵¹ / _分	甲陽
第13回	34:14甲	4:1甲	2:1関	8:1関	5:2甲	2:0甲	27:19関	42:30関	4:4 ⁵¹ / _分	関学
第14回	33:15関	11:3関	4:2甲	5:4甲	5:2甲	2:0甲	24:22関	48:34関	4:4 ⁵¹ / _分	甲陽
第15回	27:21関	6:5関	1:0関	5:4関	6:1甲	2:0甲	31:25関	37:33関	6:2関	関学
第16回	31:17関	4:2甲	1:0関	6:3甲	4:2甲	2:0甲	32:24甲	42:41関	5:3甲	甲陽
第17回	33:15関	2:1関	4:0関	8:1甲	4:3関	2:0甲	29:27甲	42:22関	5:3関	関学
第18回	31:17関	2:0甲	3:0関	8:1甲	7:0甲	2:0甲	31:25関	48:40関	4:4 ⁵¹ / _分	甲陽
第19回	29:19関	3:2甲	2:0甲	7:2甲	4:3甲	2:0甲	30:26関	39:34関	5:3甲	関学
第20回	30:18関	3:2関	2:1関	5:4甲	4:3関	2:0甲	31:25甲	41:25関	5:3関	甲陽
第21回	24:23甲	3:0関	3:1関	7:2関	7:0甲	2:0甲	29:28甲	68:39甲	5:3甲	関学
第22回	35:13関	4:2甲	2:1関	7:2関	4:3甲	2:0甲	42:14関	49:29甲	4:4 ⁵¹ / _分	甲陽
第23回	31:17関	7:3甲	2:1甲	8:1甲	5:2関	2:0甲	31:25甲	45:29甲	6:2甲	関学
第24回	31:17関	14:2関	2:0関	6:3甲	5:2関	2:1関	46:10関	45:27甲	6:2関	甲陽
第25回	28:20関	5:3甲	0:0 ⁵¹ / _分	7:2関	4:3関	2:0甲	38:18関	69:34甲	4:3関	関学

種目 回	陸 上	野 球	サッカー	卓 球	テニス	バレー	水 泳	バ ス ケ ッ ト	剣 道	総合	場所
第26回	28.5:18.5関	4:1関	1:0甲	5:4関	5:2甲	2:1関	44:12関	77:50甲	—	4:4 ⁵¹ / _分	甲陽
第27回	30:17関	5:0関	1:0関	5:4関	4:3関	2:1甲	39:17関	57:37甲	—	6:2関	関学
第28回	38: 9関	2:1関	6:0関	7:2関	5:2甲	2:0関	35:21関	59:40関	—	7:1関	甲陽
第29回	25:23関	2:1甲	2:0関	7:2関	4:3関	2:0関	35:21関	48:45甲	—	6:2関	甲陽
第30回	31:17関	2:2 ⁵¹ / _分	5:1甲	7:2甲	5:2甲	2:0関	38:16関	53:47関	—	4:3関	関学
第31回	29.5:18.5関	4:1関	3:0甲	5:4甲	4:3甲	2:1甲	31:25甲	65:51甲	—	6:2甲	甲陽
第32回	29:19関	2:1甲	1:1 ⁵¹ / _分	9:0甲	4:3甲	2:0関	35:21関	41:34関	—	4:3関	関学
第33回	33:15関	1:1 ⁵¹ / _分	1:0関	6:3甲	6:1甲	2:0甲	35:21関	64:26甲	—	4:3甲	甲陽
第34回	29:19関	0:0 ⁵¹ / _分	0:0 ⁵¹ / _分	5:4関	4:3甲	2:0関	49: 7関	51:34関	—	5:1関	関学
第35回	28:20関	1:0甲	2:0関	7:2関	4:3甲	2:0関	51: 5関	36:27甲	—	5:3関	甲陽
第36回	33:15関	4A:3甲	2:0関	5:4甲	6:1関	2:0関	40:16関	45:36関	—	6:2関	関学
第37回	27.5:20.5関	5:5 ⁵¹ / _分	2:1関	5:4関	5:2甲	2:0関	39:17関	49:45関	—	6:1関	甲陽
第38回	27:21関	2:1関	3:0関	5:4関	5:2関	2:0関	34:22関	49:27関	—	8:0関	関学
第39回	32:16関	4:0関	2:1関	6:3甲	5:2甲	2:1関	42:14関	41:33甲	—	5:3関	甲陽
第40回	33:15関	3:1関	2:0関	6:3関	4:3甲	2:1関	42:14関	65:28関	3:2甲	7:2関	関学
第41回	34:14関	3:1関	1:0関	6:3関	4:3関	2:0甲	46:10関	64:28関	2:1関	8:1関	甲陽
第42回	43: 5関	4:2甲	7:0関	5:4関	4:3関	2:0関	37:19関	52:45甲 (3本:5本)	2:2関	7:2関	関学
第43回	39: 9関	4:1甲	3:1関	5:4甲	4:3関	2:0甲	30:26甲	36:32甲	4:1甲	6:3甲	甲陽
第44回	41: 7関	9:7関	2:0関	6:3関	5:2関	2:0関	40:16関	54:40甲	2:0甲	7:2関	関学
第45回	34:14関	6:5関	1:0関	5:4関	4:3甲	2:1関	37:19関	50:29関	3:2甲	7:2関	甲陽
第46回	37:11関	8:0関	3:1関	5:4関	4:3関	2:0関	41:15関	67:33関	3:1甲	8:1関	関学
第47回	33:15関	9:0関	11:1関	5:4甲	6:1関	2:1甲	42:14関	47:24甲	1:11甲 (2本:1本)	5:4関	甲陽
第48回	41: 7関	7:4関	9:0関	8:1甲	6:1関	2:1関	46:10関	51:35関	4:0甲 (1分け)	7:2関	関学
第49回	37:11関	16:4関	2:0関	6:3甲	5:2甲	2:1関	51: 5関	50:44関	2:1関 (2分け)	7:2関	甲陽
第50回	32:16関	5:4関	5:0関	6:3甲	6:1甲	2:1関	52: 4関	39:37甲	2:1関 (2分け)	6:3関	関学

創立85周年記念会員総会 開催される

—— 約400名が母校跡地甲子園都ホテル（現ノボテル甲子園）に集合 ——

昨年8月31日... 午後1時から、恒例の会員総会が甲子園都ホテル（現ノボテル甲子園）にて開催されました。今回は母校の創立85周年という節目の年にも当たり、近年では最多の399名のご参加を得て、盛会裡に終えることができました。

第1部では、平田会長の挨拶に続いて、学校法人辰馬育英会の辰馬伸彦理事長、母校の石川義明校長からご祝辞をいただき、物故者への黙祷の後、85周年記念音楽会として声楽鑑賞の一時を過ごしました。



関西二期会でご活躍の、22回生故芦原健氏ご長女芦原昌子さん、59回生で榊大林組にご勤務の傍ら、関西二期会でご活躍中の竹田昌弘氏のお二人による声楽コンサートで、ピアノ伴奏は関西二期会の鎌田史子さんでした。途中、芦原さんには学生時代や今の甲陽に対する印象を語っていただいたり、竹田さんには会社勤めと音楽活動の両立、在校時代の思い出などを語っていただき、和やかな雰囲気の中で声楽を楽しむことができました。40分ほどの小さな音楽会でしたが、例年のパネルディスカッションとはまた少し趣の異なった優雅な催しであったと思われます。

プログラムは以下のとおりでした。

1. 乾杯の歌（デュエット）
2. ドイツ歌曲より ます（芦原）
歌のつばさ（竹田）
3. 日本歌曲より この道（竹田）
夏の思い出（芦原）
4. イタリア歌曲より マッティナータ（芦原）
オーソレミオ（竹田）
5. オペラのアリアより 女心の歌（竹田）
蝶々夫人（芦原）
6. メリーウィドウワルツ（デュエット）

第2部は会場を移して懇親会を行いました。司会は、67回生で朝日放送アナウンサーの上田慶行氏にお願いをいたしました。



上の二葉の写真のように懐かしい恩師の先生方も多数ご列席いただきました。また、下の写真は新卒者の83回生の面々です。多くの新しい仲間達を歓迎することができました。



参加者が最も多かった学年は、ホームカミングデーにもあたっていた33回生で、記念品が贈呈されました。また、ご寄贈いただきました「白鹿」、サントリーのビール・ウイスキーを楽しみながら、甲陽クイズや歴代の甲陽校歌の大合唱などで、午後4時すぎまで年に一度の懐かしくも楽しい宴が続きました。

会 務 報 告

平成14年4月1日から平成14年12月31日までの会務報告を申し上げます。

1 はじめに

平成14年4月3日に役員総会が開催され、この総会で平田 豊会長（22回）が再選されました。同時に監事の選出が行われ、堀 建二（17回）・長村 卓（21回）・川端喜佐男（22回）監事が再選されました。

この後、会則により新執行部が選任され、各会務担当の分担が決められました。同時に各委員会（会報編集・会員総会運営・会務運営・会員名簿編纂）の委員の選出があり、それぞれ会則に従い、各委員会が中心となり、同窓会活動の活発な展開と活動が行われました。

本年度は、新執行部の発足にともない、新たな決意をもって、同窓会活動の活発な推進と、日常会務の遂行に取り組んでまいりました。お陰様で同窓生の皆様方のご理解とご協力を得まして、同窓会の活性化は年々その成果を挙げつつあります。ここに深く感謝と御礼を申し上げます。

2 同窓会の活動状況について

1. 会報編集委員会

14年度は、昨年7月に「会報・第66号」ご発行しました。続いて本年3月に「第67号」を発行するために、その内容の向上を目指して、密度の濃い議論を戦わせ、その編集企画にあたってきました。

同窓会の会報であります「甲陽だより」につきましては、常に皆様方から数々のご意見・ご批判が寄せられています。そして、多くの方々から企画・編集内容共に同窓会の情報誌らしくなった、更なる新企画と内容の向上に、大変であろうが研鑽を続けて欲しい、との有り難いご要望を頂戴しております。

委員会では、同窓会の情報誌として、紙面の刷新は勿論、その内容の充実を心掛けて、現状に安住することなく頑張る所存であります。その為には、皆様方からの忌憚のないご意見・ご批判を頂き、それを謙虚に受け取り反省の糧にしたいと願っております。

2. 会員総会運営委員会

本年度の会員総会は、創立85周年の記念すべき会員総会とすべく、当年度の当番幹事である53回卒の方々のご協力を得まして、その企画を吟味し新機軸を出すべく、真剣な論議を重ねてきました。そこから「第一部」を“85周年記念音楽会”とし、関西二期会でご活躍されている、甲陽・22回卒の故芦原 健氏のご長女であるソプラノ歌手・芦原昌子さんと、同じく甲陽・59回卒のテノール歌手・竹田昌弘さん、またピアノの伴奏として二期会の鎌田史子さんをお招きして、癒しの一時を持ちました。

これは、「第二部」の懇親会パーティと併せ大変なご好評を得まして約400名ものご出席を賜りましたことは、関係者一同の望外の喜びであります。

ここに会員総会の開催にご苦勞をされました関係者の皆様と、ご参集を賜りました同窓生の皆様方に感謝と御礼を申し上げます。

3. 会務運営委員会

この委員会は、会則・第28条 第1項の規定により、臨時に設けられた委員会であります。この委員会では、特に同窓会財政の将来を睨み、財政の安定化・健全化の道を確立する責務を担っております。現在、同窓会財政の現状と将来の見通しを深く掘り下げ、色々と慎重に議論を重ねて、一つの方向と結論を導きだそうとしています。委員の皆様には、ご多忙のなか大変なご苦勞を願っております。

4. 会員名簿編纂委員会

この委員会も、会則により臨時に設けられた委員会あります。その編成は、「編纂部会」と「広告部会」の二つに分かれ、その2部会の統括と調整に「世話役会」を設けて、両部会の円滑な運営と煩雑な諸作業の推進を図っております。

会員名簿の編纂・発行などの諸事項につきましては、先号の会報にて、その詳細を説明させて頂いておりますので、ここでは省略をさせていただきます。

また、現在の進捗状況につきまして申し上げますと、15年1月中旬に、第1回目の調査カード（往復ハガキ）を、現時点で把握しています同窓生全員に発送をいたしました。この調査カードには、前回・前々回に発行しました会員名簿に記載（事務局にて把握している、住所変更等は訂正済み）しています、新会員名簿に必要な諸事項を記入しまして、変更・訂正の有無を記載して頂くようお願いをしました。

このご返送を待つて、会員名簿の原簿（事務局のパソコンに打ち込み済み）と照合、より確度の高い・より密度の濃い原簿に仕上げます。この作業が終わりますと、前々回の名簿作成時からの消息不明者の方々に対して、電話による追跡調査の作業を先ずさせていただきます。これと平行しまして、各回卒の理事・評議員の皆様には、同期の方々の消息不明者の確認調査をお願いしたいと考えております。

この消息不明者の確認調査の作業は云うに易く行うに大変な難作業であります。委員会におきまして懸命の努力を致しますが、これも皆様のご協力なくして出来うるものではありません。何分とも宜しくご理解を賜りまして、ご協力の程お願いを申し上げます。

3 平成14年度・同窓会の財政状況について

12月末までの財政状況を申し上げます。右記の「平

成14年12月末収支決算表」のとおり、12月末までの本年度のみの実質の収支ですが、実収入の合計（繰越金を除く）は5,347,938円で、実支出の合計（予備費の支出を除く）は8,100,541円となり、実収支は△2,752,603円の支出の超過となっております。しかし、実質的には新卒者からの200万円の収入がありますので、これを勘案すれば12月末の時点では約75万円の支出超過と考えられます。

これを分析しますと、実収入面では年会費・終身会費の収入減であります。予算計上額・600万円（新卒者200万円を除く）に対して、12月末では実質的には160万円の未達成となっております。

これは、一つには、事務局の努力不足もあろうかと反省をしていますが、会費の納付促進への対策と実行が、事務局の促進能力と実務限界を超えてきたこと。また、毎回の会務報告の中で申し上げていますとおり、年会費を毎年 にわたり納付されていた方々が、新終身会費制の実施により、1回限りの終身会費に切り換えられて、毎年の年会費の納付が大幅に減少してきたことが原因かと考えております。

一方、実支出について見ますと、大きく予算額を超過していますのは会員総会費であります。予算の120万円（参加人員200名で計上）に対して、支出額は230万円と約110万円の超過となっています。これは当日の参加人員が400名と大勢が参加して頂いたが為であります。しかし、当日の会費収入が約80万円を頂戴していますの

●平成14年度・12月末収支決算表●

[収入の部]				[支出の部]			
科 目	1 2月分	累計4~12月分	予算額	科 目	1 2月度	累計4~12月分	予算額
会 費	52,000	4,396,500	8,000,000	人 件 費	311,400	1,627,280	2,116,000
※年 会 費	26,000	1,182,000	1,500,000	※月 手 当	128,000	1,512,000	1,536,000
※終 身 会 費	26,000	3,214,500	4,500,000	※夏冬手当	160,000	260,000	300,000
※新卒入会金	0	0	600,000	※通 勤 費	23,400	215,280	280,000
※新卒年会費	0	0	1,400,000				
				交 通 費	9,800	9,800	100,000
名簿収入	0	57,000	0				
				需 要 費	20,487	531,189	800,000
広告収入	0	60,000	200,000	※通 信 費	20,487	467,781	600,000
				※事務用消耗品費	0	63,408	100,000
総会会費収入	0	794,500	600,000	※備 品 費	0	0	100,000
雑 収 入	0	0	0	会 議 費	461,118	3,823,453	2,900,000
				※会員総会費	0	2,297,438	1,200,000
利子収入	0	1,438	20,000	※役員総会費	0	390,984	300,000
				※理 事 会 費	143,514	308,909	400,000
寄 付 金	0	39,000	0	※委員会費	33,264	541,782	700,000
				※懇 談 会 費	284,340	284,340	300,000
収入合計	52,000	5,347,938	8,820,000				
				事 業 費	0	1,800,566	3,640,000
基本金解約	0	0	0	※甲陽だより	0	534,345	1,200,000
				※郵 送 料	0	642,792	1,400,000
前年度繰越金	4,641,679	—	(6,795,192)	※振替用紙代	0	60,900	120,000
				※封 筒 代	0	53,130	120,000
収入総計	4,693,679	—	(15,615,192)	※記 念 品 代	0	449,399	600,000
				※母校後援費	0	60,000	200,000
◎12月末日現在・現預金残高明細				雑 費	47,785	308,253	400,000
*三井住友銀行（普通預金）	1,452,133円			※校 内 志	25,000	50,000	50,000
*郵 便 局（通帳）	910,000円			※慶 弔 費	21,000	97,973	100,000
* // （振替通知票）	135,350円			※振 替 料	840	79,020	100,000
*三菱信託銀行（通帳）	1,273,577円			※雑 経 費	945	81,260	150,000
*手 元 現 金	72,029円						
合 計	3,843,089円			支 出 合 計	850,590	8,100,541	9,956,000
◎12月分・収入件数の合計と累計				予 備 費	0	200,000	5,659,192
科 目	科 目	累 計		支 出 総 計	850,590	8,300,541	15,615,192
*寄 付 金 —	0件	8件					
*年 会 費 —	12件	812件		収入総計	4,693,679	—	—
*終身会費 —	1件	184件		支出総計	850,590	—	—
*名 簿 代 —	0件	57件		翌月・繰越金	3,843,089	—	—
*広 告 代 —	0件	3件					
*総会会費 —	0件	196件					

(単位：円)

で、実質の差異は約30万円であります。他の予算科目につきましては、概ね予算額の範囲を推移しています。

要は、収支の過不足は、本年度の年会費・終身会費の収入減からきています。事務局としまして、この1月から3月までの間に、会費の納付促進に懸命の努力を傾注する覚悟であります。今後とも、ご理解とご協力のほどお願い申し上げます。

4 各支部の結成と育成について

本年度の全国各地域における、支部の結成促進とその育成については、各地域で中心となって推進をして頂ける同窓生に、機会あるごとにお問い合わせをしていますが、昨今の社会・経済情勢もあって、なかなか支部結成の機運を掴むまでには至っておりません。

各地域では、同窓生の年齢を越えた集いは、その地域の甲陽会として、機会あるごとに行われているようですが、結束しての支部結成までは、中核となられる方のご遠慮や、時間と経費の関係もあり、単なる地域の小さな甲陽会で継続されているようであります。

地域の支部になっても、会則による制約もなく、支部状況の報告義務だけであります。全国各地での支部活動は、同窓会本体の発展・活性化と結束に繋がります。同窓会・事務局としまして、出来る限りの協力をさせていただきますので、相談なり協力要請をお待ちしています。

●終身会費・各回別納付金額設定表●

回 生	金 額	回 生	金 額	回 生	金 額
1回	10,000	31回	10,000	61回	23,500
2回	10,000	32回	10,000	62回	24,000
3回	10,000	33回	10,000	63回	24,500
4回	10,000	34回	10,000	64回	25,000
5回	10,000	35回	10,500	65回	25,500
6回	10,000	36回	11,000	66回	26,000
7回	10,000	37回	11,500	67回	26,500
8回	10,000	38回	12,000	68回	27,000
9回	10,000	39回	12,500	69回	27,500
10回	10,000	40回	13,000	70回	28,000
11回	10,000	41回	13,500	71回	28,500
12回	10,000	42回	14,000	72回	29,000
13回	10,000	43回	14,500	73回	29,500
14回	10,000	44回	15,000	74回	30,000
15回	10,000	45回	15,500	75回	30,000
16回	10,000	46回	16,000	76回	30,000
17回	10,000	47回	16,500	77回	30,000
18回	10,000	48回	17,000	78回	30,000
19回	10,000	49回	17,500	79回	30,000
20回	10,000	50回	18,000	80回	30,000
21回	10,000	51回	18,500	81回	30,000
22回	10,000	52回	19,000	高商・1	10,000
23回	10,000	53回	19,500	高商・2	10,000
24回	10,000	54回	20,000	高商・3	10,000
25回	10,000	55回	20,500	高商・4	10,000
26回	10,000	56回	21,000	機械・1	10,000
27回	10,000	57回	21,500	機械・2	10,000
28回	10,000	58回	22,000	造船・1	10,000
29回	10,000	59回	22,500	造船・2	10,000
30回	10,000	60回	23,000	工業・1	10,000

(単位：円)

リレー随想

－ 第 3 回 －

ご好評のリレー随想も、三人目の走者にバトンタッチされました。前号の山野井先輩（4回卒）のご指名で、17回卒の堀先輩から「真珠湾から終戦」まで、艦爆機のパイロットとして、厳しくも貴重な体験をされた、死闘の自分史を語って頂きました。これは「戦争のない平和な21世紀を心から願う」堀先輩の真摯な祈りでもあります。

「運」は「努力」についてくる

堀 建 二 (17回)

- p 先輩は大正9年10月29日の申年生まれ、数え84歳になられたと聞いています。浜脇小から4年生で建石小に転校されて、甲陽中学に入学されたのですね。
- o 当時は神戸一中・北野と甲陽・灘がトップの受験校です。地元の西宮では、通学に便利な甲陽が一番の志望校でした。入学と同時に柔道部に入り、連日の激しい練習のお陰で、身体は小柄でしたが粘り強い基礎体力が養われました。この事で艦爆を操縦し、死闘の中で2度の死線を乗り越え生き抜くことが出来たと感謝しています。
- p 中学5年を終え、昭和13年3月に卒業され、10月に海軍飛行予科練習生の試験を受けられたのですね。
- o そうです。父親の故郷である金沢の四高を受験しましたが、代数の一問が出来ず失敗しました。志望は理乙で、外科の軍医になる希望を持っていました。当時は、満州事変から日中戦争へと軍国主義の風潮が高まり、甲陽も篠山の70聯隊から現役の少佐が派遣され、軍事教練に明け暮れていました。これに感化されたわけではありませんが、国の為・人の為に尽くしたい、父母の故郷を守りたいとの気概が、どこか少年ながらあったのですね。一年を浪人して翌年の 土重来を期していたのですが、県から学校に海軍甲種飛行予科練習生の募集の呼び掛けがあり、空への憧れもあって受験しました。この頃はまだ飛行機は必ず落ちるものと思われていた頃でした。

はからずも兵庫県から私を含め5名（姫路中・神戸三中・明石中・豊岡中）の若者が合格しました。面白いことに、試験の科目の中で、その理由は判りませんが、人相・骨相・手相・足の裏の相まで検査をされました。

- p ここで、あの真珠湾攻撃に、艦爆機の操縦士として参加されるまでのお話をお聞かせ願いたいのですが。
- o 13年10月に合格と同時に、横須賀海軍航空隊に第3期甲種飛行予科練習生として入隊しました。この時の訓練で、地上にての基礎知識を徹底的に叩き込まれ、シゴキのように基礎体力を養成されました。入隊時の位は海軍四等航空兵でしたが、この年の12月には海軍一等航空兵に昇進していました。

14年3月には予科連の移転にともない、霞ヶ浦海軍航空隊に配属、初めて飛行訓練を受けました。15年3月に操縦と偵察の選別があり、3期生245名の中で私は

操縦120名の一人に選ばれました。そこで筑波航空隊に配属となり、14式初歩練習機（複葉・布張り）で操縦に励みました。15年5月に初歩飛行教程を終え、谷田部航空隊に入隊、93式中間練習機で夜間飛行などの高等技術を特訓されました。

この中間訓練の終了で各機種別の選考があり、私は艦上爆撃機専修操縦員として、大分の宇佐航空隊に配属されました。ここで愈々96式艦爆機の実用機で実戦の訓練となりました。この時の艦爆機の訓練生は10名で、教官とのマンツーマンの厳しい訓練でした。宇佐の沖にある岩礁に1kg爆弾を、アイモの照準器で分角修正をしつつ、3000mの上空から急降下をしながら、450mで投下着弾させるのです。その急降下の重力（約6G位）たるや、その身体への負担は想像以上でした。

16年の春になって、新型の99式二型鑑上爆撃機が配備され、急降下と空戦の猛訓練が連日続きました。この後、実戦部隊の佐伯航空隊に配備となり、ここで佐伯湾内で仮想敵の潜水艦（廃船）に、急降下爆撃で爆弾を命中させる訓練に入りました。この猛訓練で、急降下しながら爆弾を目標に当てんが為に、誤って機体を潜水艦に突入させ殉職する者も、2カ月に一度はあったように思います。

この間に長崎の大村航空隊に派遣され、航空母艦に離着鑑する昼夜間の特別訓練を受けました。これは多分、航空母艦乗組みの搭乗員を選別していたと思います。

16年9月初めに、神戸の川崎重工で新鋭航空母艦・瑞鶴が進水し、これの艤装員を命じられ従事しました。大分空で空戦・爆撃の訓練をやりながら、瑞鶴で離着艦と移動目標捕捉の操縦に力を入れました。その間、母艦は呉軍港に度々入港し、戦闘兵器を満載したり、航空機の潤滑油も不凍液を積み、速力計のピトー管は電熱ピトー管に替え、飛行服も電熱飛行服となりました。これで我々は、いよいよ寒い北国のソ連と交戦するのではないかと思いました。

- p 昭和16年12月8日（月）、「ニヒタカヤマノボレ1208」で、あの不幸な「太平洋戦争」に突入したのですね。
- o 航空母艦（6隻）中心の「第一航空艦隊」（機動部隊）が編成され、私は第5航空艦隊の瑞鶴（他に翔鶴）に乗艦しました。11月19日、母艦は弾薬・食糧・燃料を満載、搭載機は零戦・99艦爆・97艦攻です。泊地・桂島を出港して、瀬戸内海を後に豊後水道を南下し、九州東岸から遠く霞む四国の山並みを見ながら、これで内地とはおさらばかと悲壮な感慨にふけたのを思い

出します。

母艦はチャート上では、八丈島の沖をまだ東へ進み、房総半島を過ぎた頃に急に進路を330℃ Nに転じ、寒さが増してくる北海道を過ぎ、千島列島を左手に見ながら進み、南千島エトロフ島の単冠湾（ピトカップワン）に到達しました。波静かな湾内には、機動部隊が其処彼処に停泊していました。矢張り相手は北かとの思いがしました。15時を過ぎる頃には、もう薄暗く一大事前の静けさが感じられました。

11月26日、単冠湾を出港。部隊は一路ハワイを目指して南下しました。航路は極秘の行動を取る為に、太平洋北廻りに近い航路で、商船が通ることのない荒海の航路を取りました。風・波の力は凄く、伴走の戦艦・駆逐艦等が、大きな荒波に木の葉のように浮き沈みしていたのを覚えています。

各部隊が単冠湾内で停泊中、度々指令部に集められ、ここに集合せる機動部隊は、12月8日（日）パールハーバーを攻撃するに決した。よってハワイに向け進攻することを知らされ、連日ハワイの地図を広げて、綿密な作戦の打ち合わせが行われました。瑞鶴の艦爆隊の攻撃目標は、オアフ島で最大の陸軍空軍基地・ホイラー飛行場の200機ばかりの戦闘機と飛行場の壊滅でした。

12月8日未明、私は瑞鶴から第一次攻撃隊（183機）の一員として、99式二型艦爆機（25機）の25小隊一番機の操縦員で参加しました。艦爆の兵装備は、250kg爆弾1発と3丁の機銃です。この機は、一発必中の捨て身戦法である急降下爆撃が主任務です。

海上はまだ薄暗く、昨夜までのしけは幾らか収まったとはいえ、風速17米前後の強風で、母艦も大きく浮き沈みしており、その白い波の飛沫は飛行甲板まで瀧のように打ち上げられていました。勿論、誰一人無事生還は期していませんでした。私も、昨夜のうちに両親宛の遺書を認めました。この時、私の年齢は21歳でした。

編隊がオアフ島上空に達したのは、3時15分頃であった。空は飛び交う白雲で一杯。旋回するうちに山の合間にホイラー飛行場がチラッと見えた。直ちに急降下爆撃に入った。爆撃後、超低空で機銃掃射に移る。相手の地上砲火は思ったより早く打ち上げてきた。真珠湾軍港に停泊中の艦船は黒煙を天まで揚げ物凄い状況である。ホノルル上空を東に抜け、カネカへ飛行場を見下ろしながら進路を西にとり、快晴の中を帰投集合点に向かった。初陣なので、上気して咽喉はカラカラであった。母艦に帰投してからの、コーヒーとカステラの味は忘れられない。わが方の未帰還機は31機・戦死者55名である。

その夜の搭乗員室の空気は、我々は米国の東海岸を攻撃すべきである。アメリカは世論の国である。ここで一気に攻めて止めを刺さなければ駄目だ。全搭乗員の意気は盛んであった。しかし、翌朝になれば進路は西にとられ、ウェーキ島を叩き内地に帰還せよとの命であった。今、当時に思いを馳せれば、真珠湾の出来事は夢のまた夢のように思えてなりません。

我々の第5航空戦隊は、12月24日に別府湾から呉に向かった。飛行隊は大分空港に降り訓練と休養にはいった。別府の馴染みの店は、戦前のまま何事もないように賑わっていた。正月は無事に内地で過ごしました。

- p 以後は数々の戦史に残る激戦地を転戦されたのですね。
- o 17年1月5日、南方戦線のビスマルク諸島方面に、瑞鶴に乗艦して向かった。トラック島・竹島で実戦訓練をやり、敵の水上基地・カヴェインを叩いて、あのラバウルでの陸軍上陸部隊の援護に、3日間にわたり60kg爆弾・4発を装備し攻撃、上陸作戦を成功させました。

この後2月13日に横須賀に帰投。3月6日に再び呉から横須賀を経てセイロン島方面に向け出航した。世に云われるインド洋作戦である。この戦闘で、英国の航空母艦・ハーメスを、魚雷なしで爆弾のみで轟沈させたのは初めてでした。海上に多数の敵乗組員が浮遊していたが、武士道で精神で機銃掃射はしなかった。その後、マラッカ海峡からシンガポールを経て東支那海を北上して馬公に寄港した。

4月19日、ソロモン方面に向け馬公を出港した。5月7日、機動部隊は珊瑚海海域に到着して、あの熾烈な珊瑚海海戦に参加、この戦闘で敵空母・ホーネットを轟沈した。この時の空戦で、とんでもないことがありました。夜間攻撃の帰途、真っ暗闇の中で味方空母と思い、敵空母サラトガに着艦しかけました。敵も味方機と間違えて着艦許可の合図を送っていました。着艦途中で敵空母と気付き、急遽反転し飛び離れました。敵も判ったのか、高射機関銃の激しい一斉射撃を浴びましたが、ようやく母艦を捜し当て無事に帰着しました。5月21日に呉軍港に帰投した。5月1日付で海軍一等飛行兵曹に任じられました。

6月15日、北のアリュेशन群島方面に向け、瑞鶴に乗艦して桂島を出港し、その作戦に参加しました。7月12日に大分沖に帰着し、8月16日に再びソロモン諸島に向けて桂島を出港しました。

8月24日から第一次ソロモン沖海戦に参加、続いて10月26日から南太平洋海戦に参加、戦傷を受け11月7日に呉海軍病院に入院しました。この時は、海軍上等飛行兵曹になっていました。この12月に別府海軍病院に転院し、所属が今までの空母・瑞鶴から佐伯海軍航空隊に転属となりました。この一年間は、目まぐるしく内地と戦場を瑞鶴で往復し、激しい空の戦闘に従事したのです。こうして生きていること自体が不思議です。

この時の負傷は、空戦中に高射機関銃で撃たれ、右大腿部の貫通重傷で足が動かないのを何糞と操縦、夕暮れ近くなり海上50米ほどを飛行、下を見れば鮫が泳いでいるのが見えました。燃料も後30分くらい。これで駄目かと思い雲を突き抜けたとき、目の前に母艦・瑞鶴ではなく、居る筈もない商船を改造したお椀のような特設空母「隼鷹」が見えた。動かない足を庇いながら何とか着艦した。九死に一生を得た訳である。後席の偵察員・根岸正明 一飛曹は、右胸を貫通され血

塗れになっており、てっきり戦死と思いましたが、無事に着艦したので瀕死の重傷でしたが助かりました。

18年1月に、正式に実戦部隊の佐伯空に復帰し、11月に702空（茂原基地）に転属、19年3月に霞ヶ浦海軍航空隊に移り、中間練習機の教官として後進の実習訓練にあたりました。6月に634空（岩国基地）に配属され、海軍飛行兵曹長として彗星艦上爆撃機の操縦士となり、急を告げる戦局の挽回に、11月から熾烈な沖縄航空戦・台湾沖航空戦、12月には死闘の比島沖航空戦に参加しました。

20年1月、激戦で戦う飛行機がなくなり、内地まで飛行機を取りに帰ることになり、マニラのクラークフィールド飛行場（滑走路は4里ほどで長く、夜間設備も不備、飛行場の警備隊も不在）から、敵の来襲を避け夜間に一式陸攻に乗せて貫き離陸しましたが、夜間攻撃で夜通し飛行していた銀河（夜間戦闘機）が、滑走路に着陸態勢で進入、私達の離陸直前の一式と空中衝突し大破炎上、乗員13名の中で私だけが奇跡的に助かった。1ヶ月ほど意識不明であった。マニラの海軍103病院に入院しましたが、2月に病院を脱出し台湾の高雄を経て、国分海軍航空隊に帰着し、別府海軍病院に入院しました。5月に海軍少尉に任官、入院中に8月15日となり、そこで終戦を迎えました。その後は帰宅し、戦傷の治療に専念しました。これが私の初戦から4年間の戦歴です。

p 歴戦の空の勇士ですね、それも最も激しい戦闘の中で、よく戦いよく生き抜かれましたね。

o この2度の戦傷がなければ、どこかの空か海で死んでいたでしょう。人間の運命なんて、何がどうなるか判らない。戦友の機が火を噴いて墜落していくのが、

昨日のこのように思いだされます。当時は、次は自分の番だと諦めの境地でした。人からよく運が強かったと云われますが、「運」は「努力」に付いてくると私は考えています。私は自分の機に搭乗する30分前から、搭乗機の整備を手伝い、その安全の確認をしていました。また、当時の燃料計が不安定なために、搭乗する時に麦藁を燃料タンクに差し込み、燃料の量を確認していました。燃料が切れると、忽ち海の藻屑と消えます。それだけに燃料の確認に細心の注意を払いました。そのような小さな努力の積み重ねが、私に運を呼び込んだのだですね。

甲陽出身で、私と同時期に戦った空の仲間で覚えているのは、先輩で兵学校から航空に進んだ矢野矩穂（13回）さんと、後輩の倉橋 要（18回）さんは艦上攻撃機乗りで、お二人とも戦死されました。兵学校を出て瑞鶴で甲板士官をしていた同期の田中国夫（17回）さんは、出撃の時に何度も甲板から帽子を振ってくれていました。その彼も、19年10月25日にルソン島沖で、孤軍奮闘の瑞鶴が撃沈され、それと運命を共にしました。甲陽出身で、この戦争で戦死された同窓の仲間に、生き残った者として謹んで合掌をさせていただきます。

私は、今の若い世代とは全く違う青春を送りました。戦後生まれの若い後輩には理解し難いでしょう。現在、イラクなどで戦争の声がしています。私の体験から申せば、戦争はお互いに殺しあいです。一日一日が明日のない生活でした。それは酷く悲惨なものです。だからこそ21世紀は戦争のない時代にしたいものです。誰よりもそれを強く望み、心からそれを願っています。

[堀先輩は、戦傷でベンが取り辛い為に、編集委員会で堀先輩が口述されるのを、文章として纏め編集をさせていただきました。よって、文責は編集委員会にあります。]

ますが、未だご返信のなき方もおられます。同窓会の会員名簿は、母校「甲陽」を全国に誇ることの出来るステータスシンボルでもあります。この「調査カード」は、名簿の精度を高め、有効に活用して頂く為には欠かせないものであります。「調査カード」を未投函の方は、ぜひご投函のほどお願い申し上げます。

この調査・確認により、会員名簿の原簿を訂正・補足し、併せて消息不明者の追跡調査を綿密に行います。そして、より完全な原簿を作成しまして、第2回目の「調査カード」に、最終の所要事項を記載しまして、往復ハガキにて確認の「調査カード」を発行させていただきます。

4. 会員名簿の申込みと広告掲載のお願い

会員名簿の購入申込みと、会員名簿への広告掲載の申込みは、既に先の「調査カード」の返信で行っております。

更に、4月頃から精力的に購入申込みと、広告掲載のお願いを行う予定であります。

皆様の更なるご理解とご協力のほど宜しくお願いを申し上げます。（ご照会、若しくはご不審な点がありましたら、事務局までお問合わせ下さい。）

会員だより



15回 クラス会

平成14年11月14日、ホテル阪神・レストラン花座。15回卒業と云えば、遙か昔、昭和11年3月の卒業です。夫々、希望を胸に巣立ったのも束の間、あの無意味の戦争のため、多数の仲間を失った。戦後は夫々の途で再建に力を尽くし、続いて実現した驚異的な経済繁栄にも大きく寄与したことでした。今日までほんとうに様々な経験の連続でした。

卒業から今年で67年。齢、80代半ばを迎えました。年と共に次々とメンバーの訃報を受け、今では連絡可能な者、約30名。誠に侘びしい限りですが人の世の定め、こればかりはどうにもなりません。この様な現状ではありますが、年に1度のクラス会の呼びかけには「待ってました!」と集ってくれる誠に頼もしく大切なメンバーを維持して居ります。

今回も賑やかに開催。これが80半ばの集まりか!!と驚く程の談論風発。経験豊かに今の社会を語り、先を案じる一席となりますが、最後に出て来るのは、やはり、あの懐かしい甲陽への想い。67年前がまるで昨年の様。素晴らしい講堂、藤棚、ソースをかけて喰ったうどん等々。先生方はすべて渾名で登場です。「来年、又、な!!」で終わります。

まだまだ続け度いと心から念じて居ります。

（落合 記）



18回 山桜会

上記 山田在夫先生担当第12回山桜会をJR芦屋駅前、ホテル竹園にて新緑の5月18日... 12時より開催致しましたが、高齢で80歳を越え出席者は青山敏男、森本浩、貴田忠三、富田幸三郎の4名で病気で出席出来ない方もおられました。

宴席に入り、お互いに傘寿を越え中学時代の懐かしい思い出を語り来年度の再会を祈り2時頃解散しました。

（富田 記）



21回 第30回橘会

平成14年11月3日（祝日・日曜日）、多少冷えましたが秋晴れの上天気、第30回目の橘会を例年どおり、宝塚市逆瀬川の「宝仙花」で開催しました。一昨年までは座敷でしたが、参加人数と各自の年齢を勘案して、昨年同様「ばらの間」の椅子席にしました。有馬温泉「中の坊瑞苑」の梶木剛常務が、毎年差し入れて下さる銘酒「梅錦」、今年も昨年同様、たくさんに頂戴し、一同感激いたしました。開催に先立って、この一年間めでたく無事故であったことなど、事務的な報告のあと乾杯、それぞれが近況報告を兼ねて歓談、今年は久しぶりに出席の西嶋（近藤）謙二郎君から、長谷川昇君の戦死の様子などを承りました。

入間田君撮影の写真は右から井川 登・西嶋謙二郎・樋口達彦・井本幸雄・林 信男・森岡甲子男・比留間敏男・筒井 潤・濱口博章・入間田謙佑諸君10名です。

昨年まで毎回参加の一色 皓君は今回胃癌の手術後のため残念ながら不参加ですが、術後の経過いたって順調、元気な様子で、来年は参加の予定です。来年31回目の橘会は、平成15年11月2日（日曜日）、場所は「宝仙花」でと決定しましたので、一年先の予定をお願いします。幹事は引き続き私がさせていただきます。

（濱口 記）



25回 桜組

平成14年度桜組クラス会を、平成14年10月19日土曜日、錦織達郎さんのご尽力により、関西電力 中之島プラザで開催しました。本年のクラス会は1988年再開以来、15回連続開催となり、出席者は12名でありました。遠く、山形県鶴岡から小田圭昭さんが参加されました。当初、15名の出席予定でありましたが、病気、急用等のため、出席出来ない方があり12名となりました。

平成14年7月1日逝去された、大内昭吾さんのご霊前に、クラス会の名前でご香料をお供えし、謹んでご冥福をお祈り申し上げたことが報告されました。

出席者の近況報告では、賑やかな応酬が続き、和気あいあいの中で、楽しい一刻を過ごしました。一方、最近、癌治療を受けた人が増え、関心が高まって来たせいか、癌予防に効く食べ物の話が、一番の話題になりました。最後は、恒例の校歌及び応援歌の大合唱で締めくくり、来年の再会を約束して散会しました。

来年のクラス会は、平成15年10月25日土曜日に、本年と同じく、関西電力 中之島プラザで開催を予定して

会員名簿編纂委員会からのお願い

1. 新会員名簿の発刊について

新会員名簿の発刊経緯につきましては、前号にてご報告を申し上げており、その後の経過につきましては、本号の会務報告の中でご報告をさせていただいています。よって、ここでは省略させていただきます。

2. 新会員名簿の企画の概要について

前回・前々回の会員名簿の内容・企画を参考に、皆様の購入意欲をそそる、またご期待度の高い・ご要望に添える会員名簿にすべく、委員会で企画を練り・内容の充実に検討を重ねております。

先ず第一に、会員名簿の編纂で心掛けることは、誤謬のない記載事項をと考えています。次いで、皆様が会員名簿に何を求め、何を期待されているかを把握し、それを内容に生かすことだと思います。それが、今までにない新鮮味と特長を持つ会員名簿になると考えています。

3. 「調査カード」について

前号の発刊から5年が経過しています。最近の社会状況は目まぐるしく変化しています。同窓生の皆様の周辺にも、その波は大きくのしかかり、勤務先・勤務地の移動が激しく、それに伴う住居の移転が多く見られます。それらの調査・確認が、今回の往復ハガキによる「調査カード」であります。期日までのご返信をお願いしてい

居ります。 来年は、日程を確定しておきましたので、数多くの会員の参加を期待して居ります。

今回の出席者は、小田圭昭・三田健一郎、富田礼記、中田恵之、錦織達郎、藤本健一、波々伯部憲作、松浦守、宮原晃一、瑞穂光信、渡辺正雄、安達正昭。以上12名でした。 (安達 記)



25回 桃組（甲桃会）

秋晴れの暖かな10月17日に第57回甲桃会（25回卒、桃組）を3月25日付「甲陽だより65号」で紹介されていた梅田北新地の西口近くにあるパーティパーク（28回旧制中学及31回新制高校卒の長崎功祐氏が顧問をされているレセプション・サロン）で開催。病気や所用の為止むなき欠席等もあり15名の出席でした。ここ1年の間会員は誰1人欠ける事なく喜ばしい限りです。

最初に今迄の物故会員14名の冥福を祈り黙祷。その後再会を祝しての乾杯で開会。前回の会合で話が出ていた懐かしい昔の写真等を持ち寄り近況報告やカラオケ等で創作料理に舌鼓乍ら約3時間歓談・飲食を楽しみ最後は恒例の校歌及応援歌を合唱し元気で来年の再会を約束して散会しました。

写真向かって左より（前列）横山吉雄、小納 弘、山田一郎、谷元和三、増田忠夫、中尾 博、大塚雅也。（後列）鰐部和夫、松井二郎、行友正裕、樋口嘉章、松原市郎、山崎昌弘、岩井 洸、池内龍雄。

次回幹事は松原、樋口、谷元の3氏です。（岩井 記）



29・31回 同期会

昨年11月16日... 17時から、梅田新地の「パーティパーク」にて、関東からも数名が駆け付け、40余名の仲間が相集いました。我々は入学時は、桜・桃・梅・李・橘と200名いた学友も、学徒動員や疎開、B29の空襲と終戦の混乱、更には学制改革で中学卒（29回）と

新制高校卒（31回）の二つに分かれました。

現在の29・31回卒の消息判明者は111名で、あの戦中戦後の厳しさを乗り越えてきただけに、その心の繋がり強く、お互いの結束の硬さを誇っております。

当日は、我々の古希の齢を考えれば、かつての花紅の顔は遠く去り、白頭霜髪の翁の容貌に近づき、額にはそれぞれの歩んできた歴史が刻まれています。しかし、逢えば破顔一笑、昔の顔が蘇ってきます。そして、当時の顔で当時の思い出話に耽ける。母校・甲陽で固く結ばれた「縁し」を大切に、その友情は健在です。来年の元気な再会を誓い散会しました。

29・31回 甲東会

関東地区在住者での集い「甲東会」は、例年のとおり2月6日に、銀座の「すえひろ」にて新年会を持ちました。関西からの参加者もあり、10余名がその元気な姿を見せ喜びあいました。

かつての微笑ましい旧悪の暴露から始まり、懐旧の情お互いに切にして談論風発・孫の話まで、高く酒杯をかがげ、お互いの友情を確かめあい、お互いの健康を祝しました。毎年の同期会を含め、これらの会合は長命回春の一助となることを、お互いに確認しあいました。

次回は、例年のとおり夏の富士山麓でのゴルフ・コンペです。5月初旬に開催しますので、奮っての参加を希望しています。

42回 学年会

8月31日午後6時半から甲子園都ホテルにて、我が学年7回目の学年会を開催。恩師の中川・中島・宮本の3先生と中部・関東地区から出席同窓生8名を加え40名の盛大な会を持つことが出来ました。

物故者への黙祷・各自の近況報告・バイキングタイプの懇親会に、8月1日にオープンした学年ホームページ<url:http://koyos36g.com>の紹介等々懐かしく楽しい時間を過ごせました。

今後は2年に1回の割で開催することも決まり、次期幹事を大野忠雄・宮崎恒彰両君にお願いしました。

学年ホームページでは、同窓生の消息・学年会情報・事務局からのお知らせ・同窓生専用掲示板も用意しておりますので、是非ご覧ください。

42回学年会事務局 花木 繁

<jimukyoku42@koyos36g.com>



43回 学年同窓会

卒業後40年を記念して、平成14年10月12日に懐かしい母校跡地のノボテル甲子園において開催した。担任の吉井先生をはじめ、宮本・中島 博・中島 久・山本先生の5名の恩師をお招きし、関東方面からの10名余を含めて42名の出席のもと本当に楽しく旧交を温めたなかには卒業以来、お互いに初めて顔を会わす者も大勢いて大いに盛りあがった。

NHKアナの西阪君の名司会で、岡本君の甲陽の歴史をまじえての挨拶に続いて、先生方からご挨拶いただいたが、各先生とも昔の授業の雰囲気そのままであった。東京の前田君の乾杯で歓談に入り、あちこちで輪ができ食事もしそちのけになるほど、全員が先生を中心に話に夢中であった。金島君の万歳三唱、東京の枯三水会幹事代表の吉村君の閉会挨拶後、合唱部の柴田君のリードで校歌を高らかに歌い、幕を閉じたが、またたく間に過ぎた2時間であった。

引続き球場横のスナックを借り切った二次会、翌日の伏尾GCでのゴルフコンペにも多数参加し、盛会のうちに終了し、来年元気に還暦を迎えることを誓いあった。（平井 記）



48回 学年同窓会

去る7月10日、の18時30分～22時45分、大阪ガスの備後町社員クラブにて恒例となりました第48回卒の学年同窓会を行いました。

当日はあいにくの台風7号のため新幹線が夕方まで岐阜の辺りでストップし、折角東京からの参加予定者数名が来れなくなるというハプニングに見舞われたものの、中島久先生、静 利一郎先生をお迎えし、総勢25名の出席を得ました。

白井さんの音頭で乾杯をした後、両先生から最近の高校のトピックスや甲陽生気質などのご報告があり、30数年前の我々の時代とはやはり変わってきているのかな？と実感させられました。

その後、クラス毎に一人1分間スピーチに移り、健康の話、趣味・孫・リストラ・再就職の話や昔懐かしい話等、大いに語り、適当に飲み、酒は程々控え目にと楽しい時を過ごしました。

最後に、クラス別と全員の写真を撮りましたが、クラスではBとDが賑わっていました。欠席者のなかの特に東京組から週末の開催希望が数名ありましたので、来年は金曜日の夜か土曜日の夕方に開こうとまた幹事団で相談する予定です。

では来年、また元気で集いましょう。

幹事団 A：池田、皆見 B：臼井、山崎
C：井上、木村 D：伊賀、山本

なお、今回も山元法律事務所の皆様のご協力を頂いています。（池田 記）



62回 学年同窓会

5年ぶり10回目となります62回生の学年同窓会を、去る平成15年1月4日...、午後ノボテル甲子園ホテルにて開催いたしました。当日は、中島 久先生、金田収二先生、佐々木尚先生、山下正昭先生にもご参加頂き、我々卒業生他40数名と共に懐かしさあふれる雰囲気のなかで大いに楽しんで頂きました。あっというまに2時間半が経ち、最後には、また3年後には同窓会をしましょうねとお約束しお開きとなりました。

次回は2006年1月2日、新理事の渡瀬君のもと、この場所でしょうということになりました。今回、都合により来ることができなかった同窓の皆さん、お待ちしております。（大野 記）



硬庭部・軟庭部 岡西 進先生の古稀を祝う会

去る12月10日、岡西進先生の古稀を口実にして、硬式・軟式テニス部（47回～53回）合同のOB会を高級日本料理店「棧」（かけはし）で行いました。岡西先生は70才にはとても見えないお元気な様子で、11月末には2泊3日のスケッチ旅行に行かれたとか、創作意欲は依然健在。この分では個展を開かれる日も近いのではと一同大いに期待をもちました。

連絡期間が十分ではなかったため、軟式からの参加は藤村さん（47回）だけになってしまいましたが、皆テニス談議よりも当時の先生方や仲間達の話に花が咲きました。そして今後も年1回位は集まることを約して散会しました。

参加者：岡西先生、藤村（47回）、池田・山元・吉田（48回）、難波・堀（49回）、安部・前田（50回）

お祝いへの参加者：羽尾（47回）、伊賀（48回）、竹内（53回）（池田 記）

火陽会

火陽会は、卒業生の在京者で構成されるサロン形式の勉強会です。昭和61年10月、吉野（34回）菅谷（38回）両氏を代表世話役とし、木下（39回）山口（39回）坂本（53回）各氏を世話人として、会員相互の親睦、異業種間交流及び情報交換を目的に、18名で発足しました。現在会員数35名で、2ヶ月に1回（毎奇数月第三火曜日）、お茶ノ水の「ビストロ備前」で開催しています。毎回10～15名が集まり、各分野の第一線でご活躍の会員（時には外部の識者）による講演後、質疑応答、意見交換及び討論を、フランス料理に舌鼓を打ちながらワイン片手に行っております。火陽会に興味のある方は、下記アドレスにお問い合わせください。
qynaka@sea.plala.or.jp
（最近の講師例）
木下俊彦早稲田大学大学院教授（39回）
船橋晴雄国土交通審議官（46回）

北橋健治衆議院議員（52回）
ツルネンマルティ参議院議員
甲にしき元宝塚歌劇団トップスター
岩城耕一郎（38回）中山久（53回）記
なお別添にて送付しました写真は、本年1月28日に開催された時の写真です。「PFI事業について」勉強会を開催しました。後列の左より岩城（38回）山口（39回）木下（39回）中山（53回）前列の左より瀬川（53回）高田（54回）坂本（53回）北橋（52回）



河田 優先生 逝去



母校でご教鞭をとられていた現職教員の河田 優先生が、昨年12月1日、不慮の事故により逝去されました。河田先生は昭和62年4月に着任され、以来およそ11年間、地理を中心とした授業を担当されました。35歳でした。

河田優先生を悼んで

山口 飛鳥（81回）

「オウ、すまん。」そう言いながら今にも戻ってきそうな突然の死でした。甲陽学院社会科教諭の河田 優先生は、2002年12月1日夜、知人の方々と会食を共にした後の帰宅途中に、阪神今津駅のホームから誤って線路に転落し、その際に顔面を強打して脳挫傷によって亡くなりました。享年わずか35歳、その余りに早すぎる旅立ちに先生を知る者はみな驚き、嘆き、悲しみに暮れました。

私が初めて河田先生にお会いしたのは、1994年4月、中学一年の地理の授業でのことでした。小柄な体から発せられるだみ声と独特の大阪弁、エネルギーが充ちあふれるような雰囲気、独特の大阪弁、エネルギーが充ちあふれるような雰囲気に圧倒されたことをよく覚えています。授業内容もまた、とてもユニークでした。最初の学期の間は地形図ばかり見ている、神戸の地形図を使って活断層を探したりもしました。断層の活動＝地震によって六甲山の現在の地形ができたこと、今後その活動は起こりうることを話されました。その翌年あの阪神淡路大震災が起こって、はからずも予言者となってしまった先生の困惑した顔を思い出します。日本地理をじっくりやり過ぎて世界地理にまわす時間がなくなってしまい、ほんの一ヶ月程度の授業でさっさと終わらせて生徒のほうが呆気にとられたのも今になっては良い思い出です。

先生は豪放磊落で親しみやすく、誰にでもよく話しかける人でした。生徒とは友達のように接する、話のわかる先生でした。私たちの学年には「河田はん」という愛称で呼ばれていて、そのキャラクターは皆の格好の話のタネとなっていました。典型的なB型気質で私たちが何を言おうと無頓着、何かを生徒にからかわれ

ると逆に意地になってそれを続けるようなところがあり、その辺りが逆に皆に親しまれる所以だったのでしょう。

その一方でとても繊細な面のある人だったようにも思います。一対一でお話させていただく機会に時折それを感じさせられることがありました。ピアノを愛好しておられたこと、昔から教職を志望しておられたことなどは私も後で聞いて知ったのですが、授業中の雑談等では一切触れられませんでした。また、学問の話になった時は真剣でした。私の高校進学後、進路のことなどの相談にも親身になって乗ってくださいましたが、志望大学を迷っている私の話をひととおりに聴いた後、溜息をついて「しかしこういうのは、行ってみんことにはわからんかなあ」と、自らの経験を交えてとくとくと話されたことがありました。ある意味で現実主義的であり、また達観したような雰囲気感を漂わせておられたのを思い出します。

私が卒業してからは、長期休暇で帰省する度に高校の社会科研究室に河田先生を訪ねました。先生の影響で地質学を専攻に選んだ私にとって、近況報告がてらお話させていただくのが何よりの楽しみだったのです。最後にお会いしたのは昨年8月で、また暮れにお会いしようと言ってわかれしました。それきりでした。

もう先生にお会いできないこと、何の恩返しもできないままお別れしなければならなかったことは本当に残念でなりません。しかし、私たち教え子が少しでも成長することが先生への何よりの報いであり、頑張っていかなばと今は思っています。

河田先生、どうぞ安らかにお休みください。そしてこれからも、未熟な私たちを叱咤激励してやってください。

甲陽学院関係者で河田先生の追悼文集を作りたいことを企画しています。在校生・卒業生・教職員の皆さま、先生の思い出をお寄せください。字数は制限しませんが、できれば2000字以内でお願いします。締め切りは5月15日です。

下記まで、電子メール（メール本文かword.txtの添付ファイル）、または郵送でお送りください。ご質問等もどうぞ。又、関西在住で編集を手伝って下さる方がおられれば、ご連絡ください。山口飛鳥（81回、2000年卒）〒113-0023 東京都文京区向丘2丁目36-13-902 s25108@mail.ecc.u-tokyo.ac.jp

山岡 利生先生 逝去



母校で長くご教鞭をとられた山岡利生先生が、昨年9月29日に逝去されました。94歳でした。謹んでご報告いたします。山岡先生は、昭和28年から昭和55年まで、母校で国語の授業を担当されました。

故・山岡利生先生をしのぶ

折口 清秀（53回）

私は、昭和41年4月に甲陽学院中学校に入学し、最初の担任の先生が山岡先生だったと記憶しております。先生の第一印象は、たぶん大多数の方と同じように怖い感じのする先生だということでした。

山岡先生のことで何か思い出はと問われて思い出すが「あほの標本まぬけの看板」「ひょうろくだま」という言葉ではないでしょうか。この言葉でしかられた生徒も多数いらっしゃると思います。

私はその言葉を受けたことがないのですが、一度だけ山岡先生にしかられたと記憶しております。

宿題だったか何だったか思い出せませんが、忘れ物をして教室の後ろに10人ほど立たされ、出席簿で頭をこつんとやられたことを思い出します。

私たち第53回生は昨年、高校卒業30年を迎えました。卒

訃報		(平成15年2月17日現在)	
左記会員の逝去の報に接しました。 謹んで哀悼の意を表します。			
奥田 光彦氏 (40回)	武川 正紀氏 (40回)	前田 克男氏 (37回) (旧姓・北村)	松宮 徳雄氏 (32回) (旧名・徳蔵)
01年10月1日逝去	02年7月31日逝去	02年4月8日逝去	02年8月23日逝去
波江野亮平氏 (32回)	石合 靖民氏 (32回)	田中 保男氏 (29回)	成田 亨氏 (28回)
02年8月14日逝去	02年12月31日逝去	02年2月26日逝去	96年12月21日逝去
菅野 裕氏 (23回)	塚本 拓男氏 (22回)	松井 信夫氏 (22回)	深見 栄一氏 (22回)
02年12月30日逝去	02年10月16日逝去	03年1月13日逝去	97年8月10日逝去
寺内 昇氏 (20回)	岡内 光雄氏 (21回)	菅 哲郎氏 (18回)	小川 清雄氏 (18回)
97年11月25日逝去	02年7月12日逝去	97年3月19日逝去	01年8月5日逝去
藤本 和知氏 (16回)	吉田 利治氏 (14回)	馬淵 淳氏 (13回)	石本 禮三氏 (13回)
00年10月27日逝去	89年11月1日逝去	02年4月11日逝去	02年11月1日逝去
松井佐治郎氏 (11回)	肥田富太郎氏 (11回)	樋口又次郎氏 (10回)	利光 平氏 (9回)
02年9月6日逝去	02年7月31日逝去	02年9月2日逝去	01年1月14日逝去
岡田 督氏 (8回)	水沢 清氏 (8回)	川部重次郎氏 (6回)	山中 文夫氏 (5回)
02年7月27日逝去	02年4月15日逝去	加藤 得昌氏 (1回) (旧姓・井上)	加藤 得昌氏 (1回) (旧姓・井上)
02年7月27日逝去	02年7月27日逝去	丸尾 忠雄氏 (42回)	中野 雅司氏 (42回)
97年3月1日逝去	98年5月29日逝去	相馬 武氏 (40回)	芝 昌宏氏 (40回)
02年7月26日逝去	02年7月26日逝去	唐川 佳之氏 (40回)	唐川 佳之氏 (40回)
01年9月6日逝去	01年9月6日逝去		
北國 弘氏 (43回)	面高 邦昭氏 (42回)	丸尾 忠雄氏 (42回)	中野 雅司氏 (42回)
97年3月1日逝去	98年5月29日逝去	相馬 武氏 (40回)	芝 昌宏氏 (40回)
02年7月24日逝去	02年7月24日逝去	唐川 佳之氏 (40回)	唐川 佳之氏 (40回)
01年9月6日逝去	01年9月6日逝去		
荒巻 和男氏 (46回)	中山 喜正氏 (53回)	松田俊一郎氏 (79回)	宮脇 涉氏 (81回)
02年10月28日逝去	02年12月29日逝去	02年10月29日逝去	02年3月1日逝去
02年10月29日逝去	02年10月29日逝去		
宇野 明郎氏 (高商2)	岡 良夫氏 (高商1)	田中 清一氏 (高商3)	森 吉郎氏 (高商3)
98年8月14日逝去	97年10月7日逝去	97年11月25日逝去	97年10月7日逝去
97年11月25日逝去	97年10月7日逝去		
富士山晃一氏 (高商3)	河野 克美氏 (高商3)	北濱 孝平氏 (高商3)	相馬 義雄氏 (高商3)
02年8月29日逝去	02年12月22日逝去	01年8月2日逝去	98年1月26日逝去
02年8月29日逝去	02年12月22日逝去	97年1月1日逝去	97年1月1日逝去
02年12月22日逝去	02年6月10日逝去	久保 哲也氏 (機械2)	後藤 彪氏 (造船1)
95年1月17日逝去	02年7月13日逝去	福岡 慎吾氏 (造船1)	川島 良継氏 (造船1)
99年7月4日逝去	00年5月1日逝去	山田 寛氏 (造船1)	細川 明彦氏 (造船1)
96年12月21日逝去	02年6月10日逝去	菅野 裕氏 (造船1)	秋田 一郎氏 (造船1)
02年6月10日逝去	02年6月1日逝去	西 邦佳氏 (造船1)	森山 秀雄氏 (造船2)
90年7月30日逝去	97年1月13日逝去	井手 清一氏 (造船2)	井手 清一氏 (造船2)